

体がうごく、心もうごく

10月9日はお天気に恵まれ、運動会を開催することができました。秋の気持ちよい天候のもと、体を動かして遊ぶ楽しさを十分味わってほしいと日ごろ、子どもたちは園庭の遊具や巧技台、マットなどでの運動遊びを楽しんでいます。運動会があるから、運動会のためにということではなく、体を十分動かして遊ぶことは、さまざまに体を発達させていきます。また、幼稚園の生活にも慣れ、自分でめあてをもったり、少し難しいことにも挑戦しようとしたりする頃です。そのような子どもたちの姿を見つめてみると…

「とんとんとん 何の音？」という子どもたちと先生のやりとりで3歳児たちの追いかっこのが始まります。「お化け」という先生の言葉に、大変、逃げなくっちゃと子どもたちは大慌てで四方八方に逃げていきます。簡単なルールのある遊びを3歳児も楽しむようになりました。最初は「お化け」の言葉に怖かったり、驚いたりしていました。繰り返し遊ぶ中で、先生との追いかっこだとわかって安心しながら、でもつかまったら大変と友達と一緒に大騒ぎをして走り出します。

同じクラスで過ごす友達にも親しみを感じてきているこの頃です。思いきり走ることの楽しさに加えて、先生とクラスの友達と一緒に遊ぶと、楽しいな、面白いなと感じていきます。

Aちゃんが嬉しくて「キャー!」と叫べば、BちゃんもCちゃんも同じように唱和していきます。楽しさが倍増して、その雰囲気が漂ってみんなに楽しい、面白いという気持ちがいっぱい広がった追いかっこです。

ジャングルジムのところに来た4歳児のDちゃん。他の子どもたちが登っていく中、表情がくもり、「できない…」とつぶやきます。「大丈夫、やってみようよ、先生、いるから」と励ますと、2,3段登って、「やっぱり…」とDちゃん。「大丈夫、できるよ!しっかり手でつかんで。そう、そして足を上げて!」とゆっくりDちゃんの様子を見ながら言葉をかけました。Dちゃんは慎重に、でも自分でやってみようと真剣に手を上の段に伸ばし、しっかりつかんで…、足を片方ずつ、乗せて…、とうとう一番上まで登りきりました。「すごい!!できたね!Dちゃん、やったね」という私の言葉に、嬉しそうに上から振り向いてうなずきました。

リレーの楽しさが分かってきた5歳児の子どもたち。3チームに分かれてバトンをつなぎ、力いっぱい走っています。しかし、すべてのチームが1位というわけにはなりません。チームが3位になったEちゃん。悔しくて、悔しくて大きな声で泣きだしました。悔しい思いを受け止めつつ、でもあきらめずにまた、今度頑張ろうと思えることが大事だよと励まします。翌日、Eちゃんとは違うチームのFちゃんが3位だったと顔をくしゃくしゃにして泣きます。「そうだね、悔しいね。1位になりたいよね」と共感する中、近くに来たEちゃんに「Eちゃんも昨日、悔しくて仕方なかったよね」と声をかけました。すると、Eちゃんが「Fちゃんの気持ち、わかる。Eもおんなじやった」と言います。そしてFちゃんも「Eちゃんの気持ち、わかる」と頷き、二人で保育室へ向かいました。

いつも私は運動会に向けて体も心も大きく、強くなってほしいと願い、“心の金メダル”の話をします。子どもたちの心には金メダルがあり、それは自分で磨かなければきれいな金メダルにならない。転んでもくじけない、うまくいなくてもあきらめずに頑張る、悔しくてもまたやってみようとする、そのようなことが心の金メダルをピカピカにしてくれるのです。運動会の後も子どもたちは心の金メダルを自分で磨いています。

